

所管事務調査報告書

令和6年6月17日

洞爺湖町議会議長 大西 智 様

総務常任委員会
委員長 五十嵐 篤 雄

本委員会は、所管事務調査のため、次のとおり委員会を開催したので、その結果を報告します。

記

○所管事務調査

- 1 調査事項 洞爺湖芸術館の取組みと現況について
- 2 調査日 令和6年5月24日（金）
- 3 出席委員 五十嵐委員長、室田副委員長、小林委員、大久保委員、越前谷委員
- 4 説明員等 教育委員会社会教育課 角田課長、黒澤係長、小谷木主事
- 5 調査結果

現在の洞爺湖芸術館は、昭和27年から旧洞爺村役場庁舎として使用していた2階建ての施設を改修し平成20年4月にリニューアルされた施設である。施設の老朽化をはじめ、所蔵作品の適切な管理や、今後の芸術館の活用方針及び運営方法等について、検討すべき課題であることから、現況と今後について調査を実施した。

その中で、それらの課題を検討するため、令和6年2月「洞爺湖芸術館あり方検討委員会設置要綱」を制定し、5月に第1回目の委員会を開催している。

これら、芸術文化の拠点整備については、平成8年度に策定された「洞爺村観光振興ビジョン」の中の「美術館ゾーン構想」をもとに、旧洞爺村における「芸術・文化ゾーン」の整備のあり様を構築する目的として、国際ビエンナーレの開催、日本の代表的彫刻家砂澤ビッキ氏の作品の所蔵、とうや湖ぐるっと彫刻公園の野外彫刻作品の設置などの拠点整備が進められ現在に至っている。

また、開館状況については、4月から11月まで開館し、冬季は休館となっている。運営母体は洞爺湖町教育委員会が主となり「洞爺湖芸術館友の会」の協力のもと運営され、現施設の1階では「ビッキアトリエ展示室」

「文化コレクション室」「町民ギャラリー」また、2階では「洞爺村国際彫刻ビエンナーレ展示室」「並河萬里展示室」などを観覧できる。

入館者については、直近の5年間で見ると、令和4年度が5,153人で最も多く、特別展を開催した成果と考えられる。なお、令和5年度の入館者は2,722人であり、約2,400人の減となっている。

これは、昨年度、特別展を立案するための専門性を有する職員が不在となったことが主な要因であるが、今年度、新たな学芸員1名が着任されたことから、秋ごろを目処に開催予定の特別展の入館者数の増を期待しているところだ。

また、近隣の「水の駅」を訪れる多くの方々が、芸術館にも足を運んでいただけるよう創意工夫を図りながら、更なる入館者の増に結び付けていただくとともに、収蔵庫に保管されたままとなっている寄贈された初版本について、広く町民に開放するためのスペースの確保等、早期検討を行っていただきたい。

今回、新たに設置された「洞爺湖芸術館あり方検討委員会」については、委員の定数を確保した中で、多面的な意見をいただき、今後の芸術館の新たな出発となることを要望いたします。